

## 「グループ学習」を取り入れた授業改善について考える

主催：札幌学院大学総合教育センター・札幌学院大学 FD センター

日時：2011 年 3 月 9 日（水）10:00～正午

会場：B201 教室（事前の申し込みは不要です）

対象：本学の教職員ならびに非常勤講師のみなさま



本学の学生の多くは、高校までの受身の学習姿勢を変えることなく（＝変える機会や場を与えられず）、十分な人間力・就業力を身に付けずに卒業を迎えてしまう、という実態があります。

この問題を解決するため、つまり、学生を主体的な学び手に変革し、社会が必要とする人間力と専門性を身に付けさせるための手法として、「グループ学習」に着目しました。そこで、「グループ学習」を実践されている先生の経験や課題意識を題材に、以下の要領で研究会を開催します。

### プログラム概要：

10:00～10:50 講演「大人数グループワーク科目は初年次生に何をもたらすか？」

講師：辻 義人氏（小樽商科大学 教育開発センター）

10:50～10:40 本学における実践報告

報告者：佐野 友泰氏（人文学部 臨床心理学科）

「一年次ゼミナールにグループワークを導入した試み」

水島 梨紗氏（人文学部 英語英米文学科）

「英語専門科目におけるグループワーク導入の試みについて」

11:40～ 正午 フリーディスカッション

### 獲得目標：

- ・ 「グループ学習」に多様な形態があることを知る
- ・ 「グループ学習」の教育的効果（期待される成果）を理解する
- ・ 「グループ学習」の実践にあたって考慮・留意すべき事項について認識を深める
- ・ 「グループ学習」を取り入れた授業デザインに関するヒントを得る

### 報告概要：

- ・ 辻 義人氏

裏面を参照願います。（第 60 回東北・北海道地区大学一般教育研究会（2010）発表要旨）

- ・ 佐野 友泰氏

2008 年度、2009 年度と 2 年間に渡り、新入生対象の基礎ゼミナールにおいてグループワーク（以下 GW と略記）を導入した教育活動を試みました。ここでいう GW とは、互いの交流を深めたり、体を動かして結束力を高めたり、自分や他者の理解を深めることを目的とする各種活動です。これらの活動は概ね学生に好意的に受け止められていると考えます。本研究会では、以下の点について報告する予定です。1) GW 導入のきっかけと目的、2) GW におけるグループワークの実際、3) ゼミナールで採用した GW の紹介、4) GW に対する学生の受け止め方について、感想からの検討、5) 学生の大学適応の変化と TA の役割について、質問紙からの分析、6) 動機付けが低い、攻撃的である、馴染めない学生などへの対応、7) GW を試みた実施上の課題。

- ・ 水島 梨紗氏

外国語教育におけるコミュニケーション能力の育成が重視されるようになって久しいですが、オーラルコミュニケーションを除く言語系の専門科目では依然として教員による講義形式の授業が大部分を占めており、学習者は受け身の受講形態に慣れています。語学教育における知識習得の重要性は疑いありませんが、そうして得た知識を運用する機会が乏しいことから、能動的な学習活動を不得手とする学生が多いこともまた事実です。本発表では、2010 年度後期に試みたグループワーク型授業の実践例を取り上げ、クラスでの様子や履修者の学習効果、課題、今後の展望などについて報告します。

問い合わせ先：教務部教務課（内線:3201）

## 第 60 回東北・北海道地区大学一般教育研究会（2010）発表要旨

**（第三分科会）話題提供 5**
**大人数グループワーク科目は初年次生に  
何をもたらすか？  
－初年次教育とキャリア教育の両立を目指す試み－**

小樽商科大学 辻 義人

大学生生活、さらには、社会生活において求められるリテラシーとは何だろうか。また、それはどのような教育活動を通して育成が可能となるのだろうか。この間に対して、現在、学生のリテラシー向上を目指して行われている取り組みと教育効果を紹介する。

小樽商科大学では、初年次生を対象とした科目群「知の基礎系」が設定されている。知の基礎系科目においては、複数の科目が開講されており、いずれも今後の大学生活に求められる知識や技能、態度の育成を目的としている。初年次生は、これらの科目群の履修を通して、大学での学びに必要な能力（いわば、大学リテラシー）に気づき、高校までの学習と大学での学びとの断絶を乗り越えることが期待される。

なかでも、特徴的な科目として「社会科学と職業」が挙げられる。この科目では、初年次生に対して、4年後には社会人となることを意識させ、有意義な大学生活の過ごし方について考えさせることを目的としている。本科目の特徴として、以下の三点が挙げられる。第一に、初年次教育とキャリア教育との両立である。近年、大学におけるキャリア教育の実践例として、多様な取り組みが報告されている。本学では、特に初年次生の勤労観や職業観の育成を重視した教育活動を行っている。これにより、学生自身の目標設定と実現に向けた努力の促進が期待される。第二の特徴として、履修者が300人を超す大規模科目におけるグループワークが挙げられる。自身の能力や適性に気づくには、他者との交流が不可欠である。しかし、授業規模が拡大するにつれて、グループワークの実施は困難になる。この点について、教員間の協力体制の構築や、学外組織との連携など、多様な工夫がなされている。第三の特徴として、心理尺度を利用した多面的な教育効果の測定である。

社会的スキル、進路選択に関する自己効力感、メタ認知、学生の学習傾向など、入学直後と科目履修後のスコアの比較を実施し、教育効果の確認と、今後の教育指針が得られている。

本報告では、初年次教育とキャリア教育の観点に基づいた、大規模科目におけるグループワークの実践例と教育効果を紹介する。そして、心理尺度を用いた調査結果より、大学生に求められるリテラシーの向上に関する教育プログラムの提言を行う。なお、本報告の内容は「大学におけるキャリア教育の実践－10年支援プログラムの到達点と課題－（小樽商科大学地域研究会編、ナカニシヤ出版）」に準拠し、学生に求められるリテラシーと、その育成方法について扱うものである。

-----  
**第 4 回 FD 研究会のご案内****教育現場で機能するコーチング(仮題)**

2011 年 3 月 8 日（火）13:00～

学校教育にコーチングを取り入れる効果と留意点に関する講義と実践的演習を予定。学生の学習意欲を高め、目標の明確化と目標達成へ向けた自発的な行動を促すための実践的なコミュニケーションスキルを獲得することを目的とします。詳細は、あらためてご案内申し上げます……

